

## 禁煙補助薬で心臓血管リスクは高まらず

禁煙補助薬の使用で禁煙成功率は上がるが、禁煙補助薬による心臓血管への害が懸念されている。本研究では、禁煙補助薬（バレニクリン、ブプロピオン、ニコチンパッチ）の安全性について二重盲検ランダム化比較対照試験を実施し検討した。

世界 140 施設から 8,144 人を対象に（男性 44.1%）、バレニクリン群（2mg を 1 日 2 回）、ブプロピオン群（150mg を 1 日 2 回）、ニコチンパッチ群（21mg/日から減量）、プラセボ群に割り付け、12 週間使用し、その後 12 週間観察した。さらに、当初の予定より 28 週間延長して追跡した。その結果、心臓血管死、非致死的心筋梗塞、非致死的大脑卒中の発症リスクは補助薬使用期間中も観察期間中も、群間に有意差がみられなかった。補助薬使用期間中のイベント発生のハザード比は、バレニクリンが 0.29、ブプロピオンが 0.50 であった。

今回の研究から、禁煙補助薬を使用中または使用後に重篤な心臓血管の有害事象が増えるというエビデンスは得られなかった。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine. 2018 Apr 9.

doi: 10.1001/jamainternmed.2018.0397.